

KAMA ちゃんの「廃棄物ひとくちコラム」

年頭に当たって

明けましておめでとうございます。

読者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

ここ3年余り国内外を騒がせてきた新型コロナウイルス感染症も、ワクチン接種やウィルスの弱毒化により感染症5類に引き下げられ、一段落してきた感があります。一方で、政界を揺るがすパーティー券代還流問題が明るみに出て、政権維持も危ぶまれる状況となっています。世界的に見れば、日本経済の位置付けはダウン続きの状況ですので、再興への道筋を開く希望が持てる世の中であって欲しいと願うのは私ばかりではないはずです。

また、ロシアによるウクライナ侵攻が泥沼化し、さらにイスラエルとガザの紛争勃発など悲惨な戦争が続いています。これらの出来事は、私たちの生活にも少なからず影響を与えていますし、今後議論となる防衛費増額問題にも繋がる話です。1日も早く戦争が終わり平和な世界に戻ることを願って止みません。

明るい話題では、野球関係の出来事が多かったように感じます。「WBC」での侍ジャパンの優勝、阪神タイガース38年ぶり日本一、大谷翔平選手の大活躍と大型移籍契約など話題に事欠かない一年間でした。今年、7月にパリを会場にオリンピック夏季大会が開催されます。代表選手の奮闘で日本中が盛り上がることを期待したいと思います。

さて、1年の始めですので昨年1年間を振り返りながら、環境・廃棄物分野における今年の展望をしてみたいと思います。

まず最初に、法令改正の点では、昨年5月26日に「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称：盛土規制法）が施行となりました。現実的には、ここから2年間で許可権者が地域指定等の手続きを行い、実質的な規制が始まるのは来年5月からとなりますが、土地利用の観点で、新たな制約が掛けられることになりました。これに関しては、静岡県では「盛土条例」が先行して施行されていますが、盛土規制法が本格運用されるまでに、条例の改正が必要になります。本年は、改正に向けた作業が本格化していきますが、政令市において、県・市の二重行政となる部分が生じることがないよう、申請者目線に立った改正議論を進めて欲しいと願っています。

廃棄物処理法の改正に関しては、現状の問題点を整理し、今後どのような改正が必要かを検討している段階と承知していますので、今年中の改正は行われたいのではないかと推測しています。

次に、廃棄物処理を巡る事件・事故としては、新たに発生したものは少なかったのですが、過去に起きた不適正処理の後始末について考えさせられる案件が県内で3件ありました。しかも、その全てが掛川市内であったことに偶然性と驚きを感じました。内訳は①放置された医療資材の河川への流出（本コラム23/02号寄

稿) ②養鶏施設の鶏糞が道路に流出③建設系廃棄物の水路への流出の3件で、①については、関係市町による回収作業が、②については、掛川市による流出防止工事が実施されました。また、③については、昨年11月末から静岡県による行政代執行が3,200万円の税金を投入して実施されています。特徴は、何れの案件も不法投棄ではなく、許可権者が問題を把握した中で長期間指導を継続してきた経過があり、結果的に原因者が対策を講じなかったために、環境影響を生じるに至ったという共通点があります。行政代執行実施前に強制力を持った許可権者の権限行使がされなかったことが残念でなりません。静岡県においては、職員数削減の影響を受けて産業廃棄物適正処理指導に係るマンパワーが明らかに不足していると考えますので、無駄な税金投入をしなくて済むよう1納税者として強く改善をお願いしたいと思います。

3点目は、JR東海が計画しているリニア中央新幹線南アルプストネル工事に関する話題です。この案件も長年にわたって議論が繰り返されてきており、最近では、静岡県が工事の邪魔をする悪者になっている感があります。昨年7月号の本コラムにも寄稿させていただきましたが、昨年末には、工事流出湧水対策について田代ダム取水抑制案でJR東海・東京電力・県内市町の合意が成立するところまで漕ぎつけました。また、国土交通省の有識者会議は、リニア中央新幹線の静岡県内でのトンネル工事が周辺環境に与える影響を分析した最終報告書案を示し、委員に了承されました。JR東海には、トンネル掘削に伴う南アルプスの環境変化などをモニタリングし、生態系への悪影響を最小化することを求める内容となっています。残るのは、工事残土の問題ですが、土木の専門家である静岡市長が述べているように、JR東海が示している計画で大きな問題が生じることがないならば、いつまでも後出しジャンケンのように課題を持ち出すのではなく、静岡県は工事着工の承諾回答をすべき時期に来ていると感じています。今年1年、静岡県がどのような対応をしていくかに注目していきたいと思います。

以上、まとまりのない文章でのスタートとなりましたが、皆様にとって幸多い1年となりますことを祈念し、本年最初のコラムとさせていただきます。

引き続きのご愛読宜しく申し上げます。